



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和6年 2月 1日
第 12 号
さいたま市立日進中学校
TEL 048-663-1251
FAX 048-663-0834

『面談』 校長 小熊 誠

今、日進の3年生は、1月22日(月)埼玉県私立高校の入学試験を皮切りに、自分の夢に向かい、進路という大きな勝負に全力で立ち向かっています。すでに、勝負を終え、夢への一步を歩みだした生徒もいます。一方で、2月21日(水)の県公立の入学試験という大勝負を残している生徒たちもいます。令和5年度日進3年生全員が、納得のいく勝負をして、それぞれの進路を勝ち取るまで、私たち教職員一同、心を一つに尽力して参ります。保護者・地域の皆様、どうぞ彼らがそれぞれの勝利を勝ち取れるよう、御支援をよろしくお願ひします。

さて、先月号で予告しました3年生との面談についてお話しします。10月2日(月)から始めて約3ヶ月。私と1対1で、朝・昼・放課後と、多い日は1日20人、1人約10分程度ですが、ほぼ全員と面談することができました。緊張で話せなくなってしまったり、涙ぐんでしまったり、饒舌になってしまったりと、それぞれの個性あふれる面談となりました。その面談の中で、進路以外で、右のグラフの3つのことを必ず聴きました。**グラフ1**では、ダントツが「部活」です。やはり日進の生徒たちにとって、「部活」は生活の一部であり、大きな意味をもっていることが分かります。日進独自の部活の在り方について検討の重要性を再認識しました。残念なのが、「勉強・テスト」の少なさです。実はこの結果が、**グラフ2**に表れています。一番目が「勉強・テスト」です。いつのテストが一番イヤだったのかを聴くと、3学期の期末テストと答える生徒が大半を占めました。「学期に1回だけのテストは不安だし、科目も多く、範囲も広い」という理由でした。また、「持久走」や「授業」と答える生徒が多かったことも残念でした。「持久走」は、「とにかく嫌い」。「授業」は、「皆の前で発表することが辛い」と答える生徒がほとんどでした。この結果を私たちは重く受け止め、しっかりと向き合っていかななくてはならないと強く感じています。そしてコロナの影響も根強く残っていることも実感しました。**グラフ3**では、「部活」と同率一番が「友達・学級」です。「日進で、一生付き合える大切な友達を得られた」「毎日自分の学級に行くのが楽しみだった」だから「日進大好きです」という答えに喜び覚えると共に身の引き締まる思いを強く持ちました。また、「体育祭」は、「個人種目もあり、むかでのような団体種目もあり、応援もフルに行え、なんだか初めて本当の体育祭を味わえた気がする。体が震えるような感動だった」というような答えが多く、改めて「体育祭」の意義を確認しました。生徒たちの素の思いに近づけた貴重な時間でした。

もう一つの予告である、1月25日(木)文部科学省の表彰式が盛大に挙行されました。。日進を日本に刻む第一歩となりました。「生徒の、生徒による、生徒のための学校」「生徒たちが希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する学校」をさらに磨いていきたいと思っています。

最後に、卒業式まで残り30日。3年生、「日進の顔」「日進の魂」をどう在校生に託していくのか?在校生が、その「魂の襷」をどう繋いでいくのか?そして、日進がどう進化していくのか?本当に楽しみです。保護者・地域の皆様、これからの日進の「メガ進化」に御期待ください。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校

